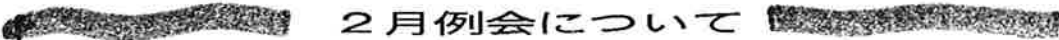




新しい年も明けました。1月第2号の発信です。

ひさしぶりに降りつもった雪ですが、みなさんのところはいかがでしたか？

交通が混乱して歩く以外なかったり、会社の仕事が雪のけから始ってしまうという日常のちょっとした混乱が、わたしにはとてもわくわくすることでありました。



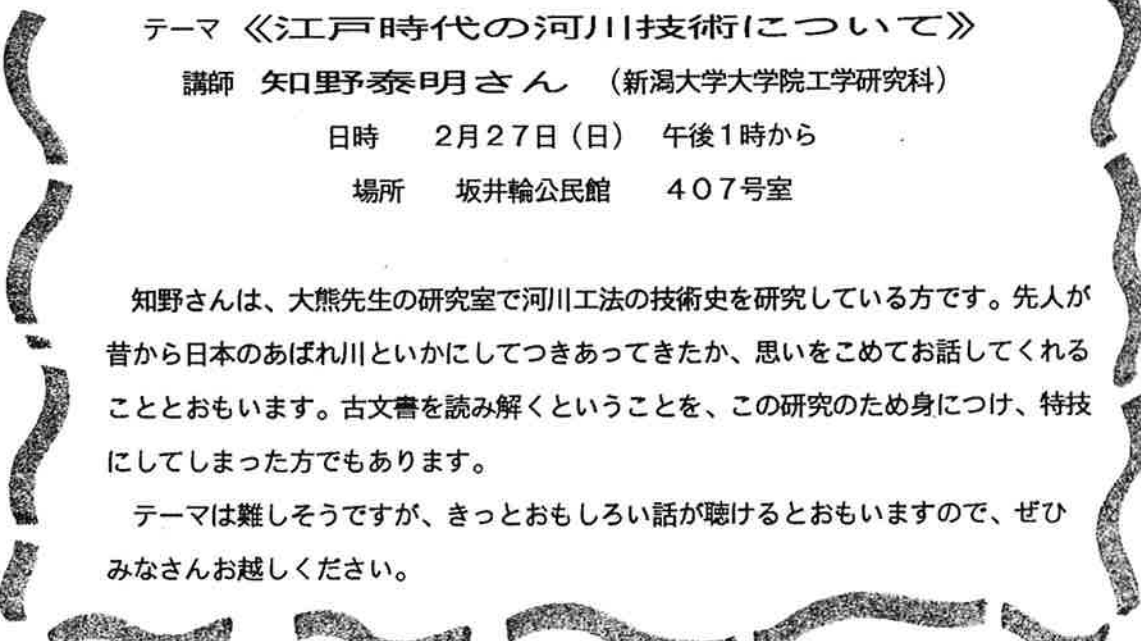
## 2月例会について

テーマ 《江戸時代の河川技術について》

講師 知野泰明さん (新潟大学大学院工学研究科)

日時 2月27日(日) 午後1時から

場所 坂井輪公民館 407号室



知野さんは、大熊先生の研究室で河川工法の技術史を研究している方です。先人が昔から日本のあばれ川といかにしてつきあってきたか、思いをこめてお話してくれることとおもいます。古文書を読み解くということ、この研究のため身につけ、特技にしてしまった方でもあります。

テーマは難しそうですが、きっとおもしろい話が聴けるとおもいますので、ぜひみなさんお越しください。

ちょっと関係あるけど……

最近わたしは「日本の米」(富山和子著 岩波文庫)を読みました。日本人が川をこれだけ整えたのは(またはこれだけ固めちゃったのは)、日本人が米づくりによって生きてきたからなのだ。米づくりのために国土を整えたといっても過言ではない。それなのに最近米づくりを捨てようというのか……。というのが本の主旨みたいでした。みなさんにも薦めたい。


(川口)

## 信濃川・千曲川 交流会



《信濃川・千曲川 交流会》の大まかな内容が決りましたので、お知らせします。

今回は、観光的な楽しさを盛り込んだ内容となりました。

【3月12日】 午後 阿賀野川 舟下り (雪見舟)   
(土) 三川村ドライブイン阿賀の里より



夕方 咲花温泉ホテル丸松にて  
意見交換会 (各会からの話題提供)

夜 続いて懇親会 宿泊

【3月13日】 午前 福島潟ウォッチング  
(日) (福島潟野鳥観察舎集合)

昼前 新潟駅にて解散

費用：阿賀野川舟下り 2,060円 (かも汁付)  
宿泊 10,000円 (酒代は別です)

時間等の詳細は、来号でお知らせします。今回は新潟なので、是非会員の方々に参加していただきたいと思います。けれど、旅館に泊るのはちょっと…という方は、日帰り参加もOKです。

宿泊予約と、舟下り予約の関係がありますので、同封葉書にて、1. 舟下りのみ参加 (意見交換会はどちらでも結構です) 2. 舟下り参加、宿泊OK 3. 宿泊から参加 4. 福島潟に参加 5. 残念ですがまったく参加できません のどれかに○をつけ、2月15日までに事務局までご返送下さい。

実は、水辺の会が温泉旅館に泊ることを企画したのは初めてです。もしかするとこれが、最初で最後かもしれません。





長谷川 恵美子

新しい年が、いろいろな想いと夢をのせて静かに幕をあけましたが、近頃、月日のすぎる早さにおどろかされ、心して毎日をすごさなければならぬと感じています。

専門的な長谷川一浩さんのおはなしのあとで（同じ姓でも大変な違いで申し訳ありません）すこし荷が重すぎる気もいたしますが、私なりに映画に重ねあわせて川への想いを書いてみたいと思います。

昨年数多く見た映画の中でも、シカゴ大学の文学教授でもあるノーマン・マクリーンの自伝的小説をロバート・レッドフォードが監督した映画「リバー・ランズスルー・イット」（「神の地を流れる河」という意味だそうですが）は、最大級に自然をたたえ、川の美しさをふんだんにみせてくれた素晴らしい映画だったと思います。自然保護に強い関心を示しているロバート・レッドフォードならではの作品で、アメリカ西部の小さな町モンタナ州のミズーラを舞台に、フライ・フィッシングをする父と兄弟の3人の男のどうにもならない思いが、ひとたびビッグ・ブラックフット・リバーの流れに向えば、雄大な自然の中で、初めてひとつになり、その中で川は静かに流れてゆく。人工的なものは一切加わっていない大自然が舞台ですから、みている側でも過ぎ去った昔の自然を思いおこさせ、心がなごみます。故郷の川は思い出とともに流れてゆく、まさにその通りで、私も子供の頃、川で泳ぎ、虫をつかまえ、蛍を追った記憶がよみがえり、水もきれいで川辺には草が生い茂り、友達とあまりうまくない泳ぎを競ったこともありました。その頃、車もあまり多くなく、刈りとった稲を舟にのせて運んだ光景が月に浮かび、川は生活にかかせないものでした。

自然は心のふるさとと、いつの時代でも万人を魅了し、川は人間の生きる原点をつくりあげ、そしてやはり水辺には、みどりが一番似あうような気がいたします。

私も、その美しいみどりに彩られた流れのごとく、自然にさからうこ

となくすごせたら幸せだと思います。

最近読んだ本「マディソン郡の橋」の中で、キンケイド氏が言う「人は年をとると、水辺が恋しくなる」というのは、あながち嘘ではないような気がいたします。

これからも多少なりとも自然にかかわって、皆様の貴重な水辺のおはなしがきけることをとても楽しみにしています。

どうぞよろしくおねがい申し上げます。

---

長谷川さん、ありがとうございました。わたしは、この映画の名前は初めて聞きました。機会があったら見てみたいと思います。昨年末から、井上さんのシベリアのスライドをみせてもらったり、間接的に雄大な自然に接する機会が増えているなあと、今感じています。日本の自然も素晴らしいけれど、アメリカ、カナダ、ロシア、オーストラリア、中国、アフリカといったような国々の大自然にも憧れますね。

水辺のリレーエッセイ第4話はお仕事でも水を扱っている小林行雄さんをお願いします。

(やぎ)

# インフォメーション

## その1 炭焼き体験ツアー

川口や八木さんが関わっている「環境生活クラブ」が、『森へ行きましょう娘さん 野外実践編』の冬バージョンとして、2月19日～20日と3月27日に、三川村の炭焼き小屋で汗を流す企画をしています。新潟市青年ネットワークと共同で主催しますが、興味のある方は水辺の会の川口までご連絡ください。

## その2 詩と絵とうたの音楽会 ゴリラはごりら

2月6日(日) PM2:30～ 黒埼町農村環境改善センター  
前売料金大人¥2,000 子供¥1,000 主催/楽しいゴリラごりらゴリラの会  
025-377-4184 (北上)

『ゴリラはごりら』(童話屋)という絵本をきょう貸してもらってよんだ。きもちがのびのびした。ワニのなみだのお話には泣けた。ごりらの鼻の穴の秘密もしった。よい、よい、すごくよい。



この  
絵は  
『ゴリラはごりら』(童話屋)  
から、お借りしたものです。



### 編集後記

年会費がちゃくちゃく集りつつあります。ありがとうございます。大事につかうからね。水辺99選については次号に再度、募集記事を載せます。自分の大事な水辺はどこだろう?ってちょっと考えておいてください。(かわぐち)

新潟の水辺を考える会

〒950-21 新潟市大学南1丁目7991-5  
電話 (025) 263-7